

地域に根差した森づくりと  
地域づくりに向けて萩市農林水産部 林政課  
林業振興係長 井上貴文

## はじめに

私は萩市に採用され10年、継続して林務担当を務めています。萩市に採用される前は、林野庁に8年勤務しており、立場を変えながら林業行政に携わってきました。地域に根差して森林に関わっていく中



まちなみと合わせた木質空間づくり

で、プロフェSSIONナルを目指し責任を持って取り組むための自身の意識づけとして森林総合監理士の資格を取得し、現在もその想いで活動をしています。

森林総合監理士としては森づくりが本分ですが、市町村職員としては森づくりも含めた地域づくりという視点を持つことが求められます。本稿では、そのような市町村フォレストラーとしての活動についてご紹介します。

## 活動地域の紹介

私の活動地域である萩市は、山口県の北部に位置し、「明治維新胎動の地」として多くの志士を輩出したことで知られる、歴史・文化を保存活用した観光のまちです。農業や水産業も盛んで、歴史的なまちなみに加え、風光明媚な景観や美味しい食もある資源豊かな地域です。皆様ぜひおいでませ！

一方で、地域の8割を超える森林は影が薄い存在です。かつては生活と密接に結びついた里山林が多く、木材産業も盛んで、

拡大造林期には人工林造成も進めましたが、生活様式の変化や木材価格の下落により森林の活用機会は縮小し、産業面でも林業・木材産業のウエイトは小さい状況です。

## 川上から川下の地域全体の取組

前述のような林業が盛んではない地域では、森林だけに焦点を絞った事業は進みにくく、木材や森林資源の利用等を通じて多くの市民や地域事業者等へ効果が波及するような施策を考えていくことが肝要です。

2018年度からの3年間は、森づくりを見据え、森林資源を活用することを目的に、川上から川下まで連携した体制づくりに取り組まれました。幅広く地域の事業者等へのヒアリング等から現状分析を行い、川上側では森林の集約化と素材生産量の拡大を進め、川下側では情報発信、営業や販売促進などの不足している機能を整理しました。この成果を受け、必要な機能を担う

主体として、2021年に森林分野の地域商社が設立され、以降、地域商社は木育や森林イベント等の一般市民向けの普及啓



市民を対象とした素材生産ツアー

発等に積極的に取り組み、森林の関係人口を増やしています。

また、並行して私自身は不勉強であった製材・木材流通・木材利用に関して、木材コーディネーターに関する講座を受講したことで、知識・経験に加え、全国の様々なコーディネーターとのネットワークを得ることができました。地域の森づくりをテーマにコーディネーターの自主的な研修会を萩市でも開催し、様々な観点から意見交換



## 萩市森林・林業ビジョン

基本理念

次世代まで幸せになる林業

将来像

森林整備



連動した  
持続可能な状態

森林資源利用

基本方針・施策

「人と生きるもりづくり」

利益の還元と生産性の向上

- ・団地化による施業の集約化と路網の整備
- ・事業量の安定確保
- ・主伐・再造林一貫作業の推進
- ・適正な経営管理と生産性の向上



魅力のある林業の実現

- ・林業就業者の所得等の改善
- ・林業就業を見据えた学校・移住者等へのアプローチ
- ・林業経営体の体制強化と担い手確保・育成・定着



多様な森林機能の発揮

- ・再造林の促進と団地外の森林の適正な整備・管理
- ・公益的機能を高める多様な森林づくり
- ・治山事業の推進



「森と生きるまちづくり」

森林の恵みを活かした暮らしの創出

- ・住宅や建築物等への萩市産材の利用促進
- ・イベント等を通じた木材利用事例の啓発
- ・木材を利用するライフスタイルの普及



森林に関わる人材の育成

- ・森づくりから木づかいまで関係者相互の意見交換の場づくり
- ・知識・関心を高めるための勉強会の開催
- ・木育やフィールド活動等を通じた人材育成
- ・教育現場における体験プログラムの実施



森林資源の価値の上昇

- ・萩市産材の高付加価値化と販路拡大
- ・競争力のある製品開発・ブランディング
- ・未利用材・林地残材の活用



を行い、森づくりと資源利用のあり方について理解を深めました。  
こうした取組で得た知見を活かして、2022年度に市が目指す森林の将来像や長期的な取組方針を示す「萩市森林・林

業ビジョン」の策定に従事しました。森づくりとまちづくり(資源利用)の連動を謳っており、森林関係者以外にも多くの市民の理解を得て体系的・継続的な事業展開を行うよう努めています。



新たな商品化に向けた取組

2024年度からは地域商社も加えた関係者による地域協議会を設立し、萩市の強みである観光と森林資源の活用を掛け合わせた商品を開発するプロジェクトを立ち上げ、企画調整を行っています。目下、具体的な商品化の最中であり、旅行業や飲食



関係者と連携した事業化の調整

市町村では、一般市民に寄り添い、森林について分かりやすく情報発信することが求められるとともに、地域に根差して森づくりを担う責任ある立場として、自然科学の視点を持ち、専門的な知識を探求し続けることが必要です。  
これからも市町村フォレストラーとして、ジェネラリストとスペシャリスト両方の感覚を磨き、地域に相応しい森づくり・地域づくりを目指していきたいと考えています。



業の関係者とも意見交換し、森とまちを奔走しています。今後は商品生産に必要な森林資源の供給体制の整備や、それらを長期的な森づくりにつなげていく手法について、地域の特性を加味して具体化する予定です。



観光(飲食)業向けの地域材製品の試作

